

YAって何？

YA(ワイエー)とは Young Adult(ヤングアダルト)の略称です。主に、中学生・高校生を中心とした10代の「子どもでも大人でもない世代」を指した〈若い大人〉という意味の言葉です。

この時期は、学校生活や進路など、悩みも多いかもしれません。だからこそ、読書が一番必要な時期とも言えます。だけど、児童書だと物足りないし、分厚い一般書だと読む気にならない…。そんな世代に向けて、和光市図書館にはいろいろなジャンルの本を集めた「YA図書」(YAコーナー)があります！小説や職業、進学、料理、スポーツ、電撃文庫などの人気ライトノベルも！！

ぜひ、自分だけの一冊を探しに、図書館に来てみてください。マンガの所蔵一覧も、新しく設置しましたので、ご利用ください。

『YA通信』は、中高生向けの情報を発信していく図書館情報紙です。3月(春)・6月(夏)・9月(秋)・12月(冬)の、年4回発行します。和光市図書館 YA 通信を、どうぞよろしくお願いいたします！



©和光市



今年も、本の福袋！

YA 事業
図書館クラブのご案内

分館

本の福袋とは、本の表紙が見えない状態で、テーマが記載されたタグを見て本を借りてもらう企画です。

今回も市内の中学生・高校生が、おすすめしたい本を分館で選び、利用者の方に手に取ってもらえるよう想像しながらテーマを考えました。おすすめのテーマにはどんな本が選ばれたのだろうか？と思いめぐらせて借りてみると、思わぬ本との出会いがあるかもしれません。

持ち帰り用のバッグは英字新聞を使った手作りです。バッグの柄にもこだわりをもって作ったので、ぜひ注目してください！

来年1月5日(日)から分館にて貸出しますので
お楽しみに。(1人1点限り)

本の

福袋





和光市立第三中学校の生徒さんが 作った絵本を展示しました！

9月27日(金)～10月23日(水)まで、和光市図書館(本館)YAテーマ展示として和光市立第三中学校の生徒さんが作ったオリジナルの絵本19冊を展示しました。

どの作品も読みごたえがある力作で素晴らしい作品ばかりでした。

ご協力いただいた第三中学校のみなさま、
ありがとうございました。



【分館】新着漫画を紹介します

『はだしのゲン 完全版』

中沢 啓治 // 著 金の星社



作者の実体験に基づき、原爆の惨禍とそこから力強く立ち上がる主人公の成長が描かれています。週刊少年ジャンプ掲載の誌面等を含めて、可能な限り再現されています。

平和の尊さについて考えさせられ、時代を超えて読み継がれる作品です。

漫画の購入については、購入希望アンケートを年に1回実施していますので、その際にご協力ください。

今年度、新たに購入した漫画は、準備ができ次第、お知らせします。

冬休みにおすすめの本

図書館職員のおすすめ本を紹介します。
ぜひ、読んでみてくださいね。

『月のケーキ』

ジョーン エイキン // 著 三辺 律子 // 訳 東京創元社 (2020年)

分類: Y933.7 資料コード: 11232212(本館)

月のケーキの材料は、桃にブランディにクリーム、タツノオトシゴの粉、グリーンガラスツリー・カタツムリ…そして月の満ちる晩に作らなければならない。祖父の住む風変わりな村で「月のケーキ」を作る手伝いをしてほしいと言われた少年の不思議な体験を描く「月のケーキ」をはじめ、幻想的で、不思議で、愉快で、ちょっぴり不気味なおはなしが13編入った短編集です。

長いお話を読むことが苦手な人も、気になるお話だけ“つまんで”読んでみてはいかがでしょうか？



『13歳からの「傾聴力」向上バイブル』

岩松 正史 // 監修 メイツユニバーサルコンテンツ(2024年)

分類: Y361 資料コード: 52018797(分館)

傾聴というと難しいことのように感じるかもしれませんが、傾聴とは相手に共感し相手のありのままを理解する技術、つまり聴き上手になるということです。人の話ばかり聴くなんてストレスがたまりそう…と思うかもしれませんが、相手の考えを否定しない習慣を身につけることは自分を肯定し、大事にすることにもつながります。

学校で、社会で一生役立つ「傾聴力」について、興味を持った方は是非手に取ってみてください。



令和6年度 埼玉県推奨図書を紹介

推奨図書とは

埼玉県で読書週間や彩の国教育週間に向けて、青少年の皆さんに読んでいただきたい図書を県民や出版社が推薦し、埼玉県青少年健全育成審議会での審議を経て選ばれた図書です。図書館本館と下新倉分館の両方で所蔵していますので、ぜひ読んでみてください。

中学生向け

書名・著者名・出版社・請求記号(本の背の数字)の順に記載

『ハーベスト』
花里真希 // 著
講談社 Y913

3人しかいない園芸部に所属するぼく、西森くん、先輩のアズサ。彼らはそれぞれの事情を抱えながら、フランス語で菜園を意味する「ポタジェ」を作るために顧問の平林先生と奮闘する。他人と自分の違いや、人との付き合い方に悩む中学生に読んでほしい一冊。



『アンナの戦争』
ヘレン ピーターズ // 作 尾崎 愛子 // 訳
偕成社 Y933ピ

アンナは戦火を逃れ、キングトランスポートでイギリスへ渡る。両親に再会するため、イギリスの里親家族の元で懸命に暮らす。あるときアンナは、負傷した兵士を見つけ助ける。この兵士は実はドイツ軍のスパイで…。戦争や生き方を学べる一冊。



『さみしい夜にはペンを持って』
古賀 史健 // 著 ならの // 絵
ポプラ社 Y159.7

中学生のタコジローは、タコに生まれたことを悔やみ、学校にも居場所がないと感じている。しかし、ある日バスを乗り過ごした先で不思議なヤドカリおじさんと出会い、考える大切さや気持ちを書き出す大切さを教わったことでタコジローは変化していく。



『きみの話を聞かせてくれよ』
村上 雅郁 // 作 カシワイ // 絵
フレーベル館 Y913

新船中学校の生徒たちの物語。7つの章で登場人物が入れ替わりながら、クライマックスに向かい、互いの思いや行動が繋がっていく。もやもやする気持ちや心の傷、誰にも言えない秘密。そんな心にそっと寄りそい、話を聞いてくれる人がいる幸せを感じられる。



『アップサイクル!』
佐藤 まどか // 作 木内 達朗 // 装画 挿絵
ポプラ社 Y913

夏休みの課題研究として3R問題から廃材の利用工夫に注目して見出した「アップサイクル」という考え方。登場人物たちは様々な壁に立ち向かいながら、誰の気にも止まらないような廃材の活かし方を模索していく。



貸出中の場合、
予約できます!

©和光市

高校生向け

書名・著者名・出版社・請求記号(本の背の数字)の順に記載

『友だちがしんどいなくなる本』
石田 光規 // 著
講談社 Y361.4

「友だち」って、何?課題ノートを見せてあげたら友だち? SNSで既読や「いいね」を付けないと、友だちじゃないの? SNSが無かった頃は、みんなどうやって友だち付き合いしていたの? そんな問いに、社会学の視点からヒントをくれる一冊。



『八秒で跳べ』
坪田 侑也 // 著
文藝春秋 913.6

明慶高校バレー部2年の宮下景は、全国大会予選直前に靭帯を損傷。チームも全国大会出場を逃してしまう。それ以来、景はバレーとの向き合い方に悩みはじめる。仲間との対立や、怪我のきっかけとなった同級生真島綾との関わりのなかで見つけた景の答えとは一。



『弟は僕のヒーロー』
ジャコモ マツツアリオール // 著
関口 英子 // 訳 小学館 B976

弟のジョヴァンニは「特別な子」として生まれた。彼なりのテンポがあるのだ。広場の真ん中でいきなり音楽に合わせ踊りだす。二人の姉のために毎日庭で花を摘む。花がなければ枯葉を持ってくる。これはそんなジョヴァンニを兄から見た物語。



『窓ぎわのトットちゃん 続』
黒柳 徹子 // 著
講談社 914.6//2

『窓ぎわのトットちゃん』42年ぶりの続編! 徹子という名前が発音できずに「トット」と自分と呼んでいた黒柳徹子さん。ハイカラな家庭、東京の女学校、NHKや芸能界など興味深い人生を送るが、特に幼少期の戦争体験は一読の価値あり。



『私たちの世代は』
瀬尾 まいこ // 著
文藝春秋 913.6

新型コロナウイルス感染症により、引き起こされた環境に適応できなかった牙と心晴。不自由で息苦しかったあの日々はなんだったのだろうか。いじめにあったり、ひきこもりになった二人が就職活動で出会い、それぞれ悩み苦しみながらも前を向いて歩いていく。



本棚の場所が
わからなかったら
カウンターまで!



©和光市